



釧路での出会い

会員 貝原 怜太 (67期)



北海道鶴居村にて

2013年10月、実務修習地が決まった。実家は神奈川県川崎市のため、できれば実家から通える庁であってほしかった。

「あなたが司法修習生に採用された場合の実務修習地は、釧路と予定しました」

書面を確認した時の衝撃は今も忘れない。同じ釧路修習であった同期は、あまりの衝撃に釧路の読み方を辞書で調べ何度も確認したらしい……。

そんな衝撃と不安とわずかな期待を抱え、実務修習地に降り立った。当初の不安はすぐに吹き飛び、先輩法曹や同期に恵まれ、充実した修習を送ることができた。週末には近くの釧路湿原を練り歩き、大自然を肌で感じるのが日課となった。そこで出会ったのが野生のフクロウだ。正確には出会ったわけではなく、どうも釧路湿原にはフクロウがいるらしい、という情報に接したのだった。昨今のフクロウブームの影響もあって、野生のフクロウを観てみたいという気持ちが高まり、私のフクロウ探しが始まった。

毎週のようにフクロウはいないかと釧路湿原近郊を探しまわったが、まったく見つからなかった。インターネットで調べても、道東（北海道の東側）にはいるらしいが、具体的にどこでフクロウが観られるのかまではわからなかった。

それから数か月が経ち夏になった。釧路の夏は半袖がいらぬほど過ごしやすく、暑がりの私にとってはとても良い気候であった。フクロウ探しも継続していたが、なかなか出会えなかった。ある日、エゾフクロウが生息している地域で日課のフクロウ探しをしていると、「フクロウを探しているのか」と年配の男性に話しかけられた。その男性は地元の鹿ハンターの方だった。

鹿を狩りに山に入っていたため、フクロウのねぐらを知っていたのだ。親切的なその男性は私をエゾフクロウがよく寝ている木まで案内してくれた。しかし、残念ながら案内された木にフクロウはいなかった。ここで一つ重要なことに気がついた。フクロウ探しはインターネットに頼るだけではダメで、現地の方から直接話を聴く必要があるのだ。

その後はネイチャーセンターの方に話を聴いたり、同じように野鳥の撮影をしている方に話を聴いたりするなどし、ついにエゾフクロウが頻りに観られるねぐらの木がわかった。早速出かけたものの、フクロウはいない……。どうもエゾフクロウは夏と冬で生活圏が異なるらしく、私が行ったねぐらの木では冬にしかフクロウが観られないようだった。それから程なくして実務修習が終わり、集合修習のため和光へと引っ越した。

集合修習、二回試験を無事に終え、12月に実務修習地である釧路へお世話になった諸先輩法曹への挨拶に伺った。そのついでにエゾフクロウのねぐらの木へと向かったが、運が悪かったのかまたもやフクロウはいなかった。途方に暮れていると、同じようにフクロウを観に来た方が別のエゾフクロウのねぐらの木を教えてくれたのだ。そこでようやく私はエゾフクロウと出会うことができた。初めてフクロウに出会えた感動はもちろん、その愛くるしい姿にしばらく見惚れていた。

実務修習をきっかけに都会を離れ大自然と出会い、インターネットでは調べ尽くせない情報がまだまだあることを痛感した。そして、フクロウを通して人との繋がり、暖かみを感じ取った。このことを肝に銘じ、東京での弁護士生活に励み、たまにはフクロウに会いに行きたい。

*表紙裏にカラー写真掲載